

(6) 種の保存

ア 基本的な考え方

種の保存計画を立て、動植物の繁殖・保存活動を積極的に推進するとともに、生息地での保存活動にも貢献するなど体制を強化する。さらに、研究機関や保護団体との連携も深め協力体制を整備する。また、種の保存の取り組みについて、来園者等に積極的に情報発信する。

イ 動物園における種の保存

動物園の役割のひとつに「種の保存」があるが、これは世界動物園水族館協会（WAZA）の「世界動物園水族館保全戦略」に掲げられている世界的な共通認識である。

(ア) 園内における種の保存

これは生息域外保全のことで、飼育下において繁殖保存を図るものである。(社)日本動物園水族館協会の種保存委員会が定める約 150 種のうち、当園で保有する 50 種についての繁殖保存に取り組んでいる（ニシローランドゴリラ、オランウータン、インドサイ、ユキヒョウなど）。このうちコアラとオランウータンについては当園が種別調整担当園となっている。

また交尾時期を的確に把握するため性ホルモンの測定や、人工授精のための精子・卵子の保存に取り組む。

a 日本動物園水族館協会の行う種の保存事業へ協力

有袋類、オランウータン、クロサイ、アムールトラ、ゴリラなど

b ブリーディングローン（繁殖貸借）の実施

ユキヒョウ（→東京都多摩動物公園）、マンドリル（→福山市動物園）

c 海外からの希少動物の導入

アジアゾウ（スリランカ）、ニシローランドゴリラ（オーストラリア）

d DNA解析による種・性別判定等 鳥類、テナガザル等（京都大学霊長類研究所ほかとの連携）



スリランカからやってきたアジアゾウ



ニシローランドゴリラ

e 希少魚類の継代繁殖

外国産希少種 16 種や、犬山市に生息する絶滅危惧種のウシモツゴをメダカ館において継代繁殖させている。



ウシモツゴ

(イ) 生息地における種の保存

これは生息域内保全のことで動物の本来の生息地での保全を図るものである。動物園は専門家として、地元の保護団体などと連携しながら東山の森や日本産動物の生息地での保全活動に貢献する。また、外国産動物においても、飼育している種の生息地であるアジアやアフリカなど世界的な規模での保全活動に貢献する。

a マレーシアにおけるオランウータンの吊り橋プロジェクト協力

森林伐採により生息地を分断されたオランウータンが川を渡れるように吊り橋を設置するという NPO のプロジェクトに協力し、訓練場所の提供や職員の派遣を行っている。



オランウータン吊り橋

(ウ) 今後の展開

東山の種の保存計画を策定して、施設整備計画や動物導入計画とリンクしていく。

a 海外の希少動物

アジアゾウの群れ作りやオランウータンの血統更新のため、新規個体の導入を図り、希少種の繁殖を推進する。また、世界動物園水族館協会 (WAZA) の提唱するスマトラトラ保全に参加し、スマトラトラの導入を図る。

b 日本の希少種

環境省の絶滅のおそれのある種の生息域外保全に関する取り組みについて、日動水として協力しているので、当園も積極的に参加していく。(例：ツシマヤマネコ、トキ、ヤンバルクイナなど)

また、日本産希少淡水魚の繁殖・保存にも取り組んでいく。(例：ネコギギ、イタセンパラ、ミヤコタナゴなど)

c 地域の希少種

東山の森に生息するカスミサンショウウオやホトケドジョウの飼育下継代繁殖に取り組んでいく。

ウ 植物園の種の保存

植物園においても、種の保存は重要な責務の一つである。東山植物園では、(社)日本植物園協会が進める種の保存に向けての取り組みである「植物多様性保全拠点園」としての役割を担うなど、地域及び日本における中核的な植物園として、期待される責任を積極的に果たしていく。

(ア) 地域の植物種の保存

東山植物園が加盟する(社)日本植物園協会では、「ふるさとの植物を守ろう」をスローガンに掲げて全国の植物園の力を結集しての植物の保全活動に力を入れており、平成18年には、植物園自然保護国際機構(BGCI)の世界植物保全戦略を受けて、全国の植物園がそれぞれの気候・地域・専門分野の特色を活かしながら連携して保全活動を行う「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を発足させた。

東山植物園は、このネットワークにおいて、「地域植物多様性保全拠点園」として位置づけられており、全国を10地域に分けた内の東海地域(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)の種の多様性の保全を積極的に進めていく責務を担っている。

a 「東海の植物保存園(ビオトープ)」における種の保存と生物調査

「東海要素植物群」の木本類であるマメナシ、シデコブシ等を中心とする種の保存に取り組む。



調査植物 (左：マメナシ、右：シデコブシ)

b 湿地園における湿地性植物の保全

「東海要素植物群」の草本類であるトウカイコモウセンゴケ、シラタマホシクサ等を中心に保全を図る。



湿地園

c 三河綿の系統保存

わが国で最初にワタが渡来したといわれる愛知県内で古くから栽培されている系統「三河綿」を保存していく。



三河綿

(イ) 日本及び世界の植物園との連携による種の保存

平成 19 年に環境省が策定した第三次生物保全国家戦略においては、これまでの生息域内保全に加え、初めて生息域外保全についての言及があり、植物園のネットワークによる絶滅危惧植物の収集・保全への取り組みが高く評価されている。

東山植物園においても、(社)日本植物園協会や植物園自然保護国際機構(B G C I)等の国際機関と連携し、種の保存における世界的な潮流を視野においた取り組みを進めていく。

a 国内植物園における絶滅危惧植物の収集保全活動への参画

(社)日本植物園協会における「2010 年までに日本絶滅危惧植物の 55%を日本の植物園において保育する」という目標の達成を、国内植物園のネットワークにおいて目指す。

b 種苗交換の推進

(社)日本植物園協会のネットワークの活用により関係植物園との種苗交換を進め、種の保存のリスク分散を進めるとともに、新宿御苑での種子保存事業に協力していく。

c B G C I の植物園の保全活動に対する国際アジェンダへの登録

保全活動における基本方針として、国際的な方針に則った活動を推進する。

d 「生物多様性のための自然博物館連合」への加盟(平成 20 年 6 月 16 日)



「生物多様性のための自然博物館連合」
加盟証明書

(ウ) 今後の展開

今後は、地域の拠点植物園として、東海要素植物群をはじめとする地域の植物種の保全を推進する(例: マメナシ、ウンヌケ、シラタマホシクサなど)。また、絶滅のおそれのある種の生息域外保全については、第三次生物保全国家戦略において期待されるように、他の植物園と連携して保全を進める。園内植物の繁殖に努め、他園との種苗交換を進めることで、種の保存におけるリスク分散を図る。

あわせて、世界的に絶滅の危機に瀕している植物種の栽培保存にも取り組む。(例: フタゴヤシ、キソウテンガイなど)

(7) にぎわいのある快適な園内空間の創出

ア 基本的な考え方

東山動植物園は、都市型の動植物園として市民の身近な憩いの場として利用されている。誰もが気軽に、都会の喧騒から離れて動物・植物にふれあえる場所として、これからも市民の皆さんに愛される場所とする。また開園後 70 年以上の歴史を有する場所としての「格調と落ち着き」と、新たな歴史をこれからも積み重ねていこうとする「活力」の両方が必要であり、「歴史」「にぎわい」「快適性」をキーワードにした園内空間づくりを進めていく。また、市民の声をもとに日々改善を心がけていく。

(ア) 歴史を大切に作る空間づくり

東山動植物園の 70 年以上の歴史の中、親に連れられ来園したかつての子どもは、親として子どもを連れ、祖父母として孫を連れ、人生の節目節目に動植物園に来園する。東山の歴史は、親から子、子から孫へと語り継がれる来園者の思い出からも成り立っている。思い出の場所、思い出のエピソードなど市民の思い出とともに、これからも市民とともに歴史を歩む場所であるために、歴史文化的施設や景観を大切に作る空間づくりを行う。

(イ) 楽しみのある空間づくり

動植物園での飲食や買い物も、来園者にとって大切な楽しみであることから、様々な要望に応えられるような多様な施設を提供するだけでなく、食事、買い物でも動植物園を訪れる目的としていただけるような質の高い飲食・物販施設を提供する。また、動植物園での思い出を作っていただけるようなお弁当広場や記念写真のスポットを提供していく。

(ウ) 清潔で快適な空間づくり

園路、休憩施設、トイレ等の来園者が利用する施設については、常に清潔で快適であるよう、施設・設備の設計時から、きめ細かく配慮し、清掃等の日常の維持管理についてもその方法、作業員の道具・制服に至るまで、総合的に検討する。

また、気候・天候の影響を受けない空間を提供し、寒い冬の日にも、暑い夏の日にも快適に楽しめるよう、園路・休憩施設の構造を工夫し、空調設備の設置等も検討する。



暑さ対策の例（ミスト）

(エ) バリアフリーの空間づくり

高齢者や障害者等の来園者にも快適な空間を提供する。そのために、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れるとともに、特に高低差のある動植物園内の移動についても、既存樹林や地形の保全に考慮しつつ、段差の解消や多様な移動手段の導入を進める。

イ にぎわいのコーナー

(ア) 正門広場コーナー（正門エントランスゾーン）

東山の歴史を物語る開園当初からの正門柱・噴水・樹木・胡蝶池が、これからも変わらぬ景観で来園者を出迎え、園内へと誘う。

胡蝶池湖畔や噴水脇のカフェや物販スペースが、東山の景観に溶け込みながら、東山の歴史に新たなにぎわいの空間を創出するとともに、動植物の展示状況、園内風景などの映像による情報サービスにより、来園者の期待感を高める。

また、案内所や休憩所なども併せて整備し、来園者の利便性の向上を図る。



正門広場コーナーのイメージ

(イ) アジアンフードコーナー（アジアゾーン）

アジアゾーンとのつながりをもった大空間の快適な室内空間に、様々なアジアンフードを売る屋台風店舗が並ぶ。夏季、冬季、雨天時においても、冷暖房完備の施設で、快適に、うきうきしながら食事を楽しむことができる。お弁当の持ち込みも可能なので、雨の日でも安心して食事ができる。室内からは東山の歴史を物語る恐竜像を見ることができる。

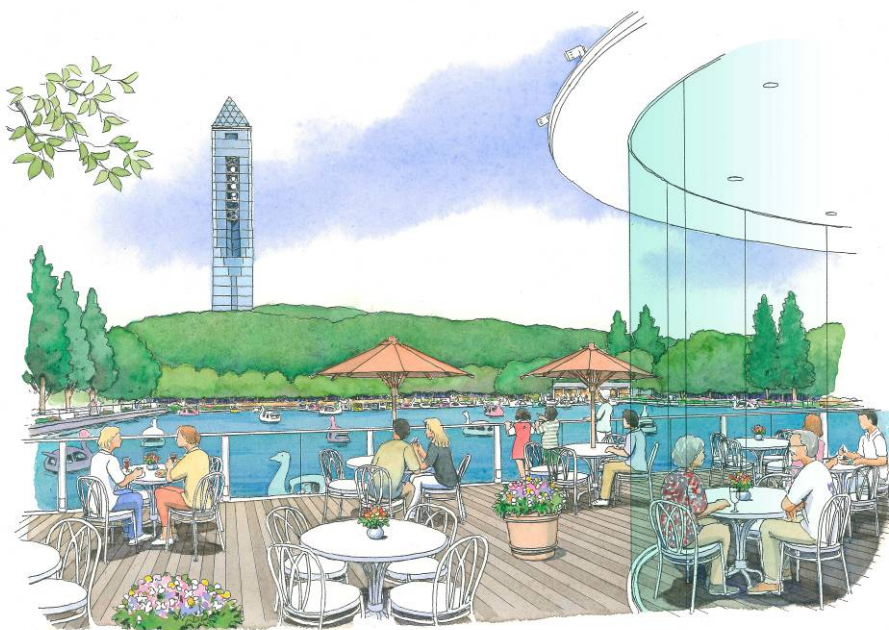
飲食施設に隣接した屋外の芝生広場では、陽だまりの中お弁当を楽しむことができる。



アジアンフードコーナーのイメージ

(ウ) 上池レストランコーナー（上池ゾーン）

名古屋のオアシス「東山の森」に抱かれて、ゆったりとした時間の中を湖畔の飲食スペースで、落ち着いた雰囲気の中、豊かな自然の景観を眺めながら食事が楽しめる。



上池レストランコーナーのイメージ

(エ) 遊びのコーナー（遊園地ゾーンなど）

子ども連れのファミリーや小学校・幼稚園の遠足など子どもが多く来園されている。キッズランドやボートなどの遊具は、子どもたちに「楽しさ」を提供する装置であり、動植物に興味のない子どもたちに動植物に興味を持つきっかけを与えるなど遊びと学習の場を一体的に提供できる。



遊園地ゾーン

(オ) 洋風庭園コーナー（世界の植物と文化ゾーン）

東山の地形の高低差を生かした立体的な幾何学式庭園と、東山の歴史を伝える温室が、社交の場としてのにぎわいの苑を演出する。

星が丘門へとつながるメインルート沿いには、屋外ステージやレストランが位置し、「オープンカフェでミニコンサートを聴く」など、東山の森に抱かれた特別なひと時を提供する。また、洋風庭園は、ヨーロッパの伝統的な庭園スタイルに沿って、東山の地形を生かし、落ち下る水の流れと一体となった立体的な幾何学式庭園として、端正な姿をあらわす。

庭園の横には、かつて「東洋一の水晶宮」と謳われた温室が、長い歴史を積み重ねてきたものだけがもつ風格を見せる。



洋風庭園コーナーのイメージ

(カ) お花畑コーナー（花と緑のふれあいゾーン）

市民・学生・企業といった方々とのパートナーシップによる、新しい植物園づくりを進める。お花畑のコーナーでは、これまでの花の景色に加え、市民や学生、企業などの皆さんが中心となって企画したガーデニングコーナーがつくられ、皆さんの手で育てられた新しいお庭が、植物園の来園者をお迎えする。

季節の良い時期にはワゴン販売も登場し、屋外の潤いのひとときを提供する。



お花畑コーナーのイメージ

(キ) 星が丘広場コーナー（星が丘門エントランスゾーン）

地下鉄「星ヶ丘駅」からの東山動植物園への入り口として、「星が丘」のまちにふさわしい新たな魅力とにぎわいを、星が丘門を中心に創出する。地下鉄星ヶ丘駅から植物園への距離を感じさせない、つながりのある華やかな展示を目指す。

緑多い町並みの中を通り抜けてきた来園者を、市民の皆さんのデザインによる立体花壇、地域の皆さんが育てたイングリッシュガーデンやオープンカフェがお迎えする。



星が丘門のイメージ

星が丘門のトンネルを抜けて植物園で最初に出会う「星が丘広場」では、シーズンイベントの会場として、近隣の学生の皆さんによるバザーなど、イベント空間が来園者をお迎えする。



星が丘広場のイメージ

ウ 園内サービス施設

(ア) 園路広場

a 園路

来園者が、安全かつ快適に移動できるように、各門（正門、北園門、上池門、タワー門、植物園門、星が丘門）、展示エリア、主要施設を接続する主園路を設ける。主園路は、十分な園路幅員を確保し、ユニバーサルデザインにも配慮する。また、わかりやすい動線計画、サイン計画とし利便性の向上を図るとともに、動物の足跡を描くなど来園者が楽しく移動できる工夫をする。

b 広場

休憩やお弁当の広場については、来園者のわかりやすい位置に設置するとともに、芝生や緑陰なども設けた憩いのスペースとなるよう整備を進める。

また、小さな子どもを対象とした遊具を設置した広場についても充実させる。



お弁当広場のイメージ

(イ) 飲食・物販・休養施設

a 飲食施設

飲食施設について、来園者のニーズに応じた多様な飲食を提供できるフードコート（セルフ方式）を設置し、利便性を高める。また、よりきめ細かいサービスを提供し、来園者の満足度を上げられるレストランや落ち着いた雰囲気のカフェなどを設置する。

施設整備にあたっては、雨天、夏季・冬季にも快適な滞在ができるよう、滞在時のサービス向上を図る観点から空調エリアを確保する。また、繁忙期の飲食需要に対応し、利便性を高めるために屋外スペースとの一体性を確保した施設配置を行う。



フードコートのイメージ

b 物販施設

物販施設について、人気動物・植物をあしらったグッズなどを販売するなど魅力と特色のある店舗演出とともに、テーマ性のある商品仕入れ、商品解説を図り、楽しみながら環境や野生動物の保護の重要性を学ぶことができる店づくり、テナントの設置を検討する。

c 休養施設

快適な滞在ができるよう空調エリアを備えた施設や屋根付き休憩所を、各所に整備する。また、園内の要所要所に、清潔でくつろげるベンチやテーブル等の休養施設も充実させる。



屋根付き休憩所のイメージ

(ウ) 便益施設

a トイレ

清潔で快適なトイレを順次新設・改修する。

また、洋式トイレの増設や女性トイレの割合を現状より上げるとともに、子ども連れや障害者の来園者に配慮して、多機能トイレを増設する。



トイレのイメージ

b 案内所、授乳室等

設置場所は、来園者のわかりやすい位置に設置し、外観やサイン上からも判別し易い構造とするとともに、来園者がやすらげる雰囲気となる室内空間の整備を図る。

また、授乳室についても、充実を図る。

c 園内移動用施設

主要施設に効率的にアクセス可能な移動手段として、需要、混雑度合いに応じて各門から各エリアを接続するトラムやカート等を設け、柔軟に運用する。



トラムのイメージ

(エ) 駐車場

- a 東山線沿線でのパークアンドライドの検討環境に配慮して地下鉄や市バス等の公共交通機関との連携による割引入場券などで利用促進を進め、自動車利用の抑制を図る。一方で、自動車利用者にとってもわかりやすいアクセスとするとともに、周辺公共施設や商業施設等の駐車場を利用した対策の検討をし、駐車場運用の見直しを図る。

駐車場の整備台数は、来園者の自動車利用割合、駐車場の回転率、乗車人員等を勘案し、園内空間の見直しや空地の活用などで、現状の駐車台数の増設を目指す。

また観光バスの乗降場を北園・新池駐車場に設置し、別途、待機場も確保し、観光バスの予約受付も検討する。



ドニチエコきっぷ

- b 駐車場情報提供

駐車場の案内については、来園者がすみやかに入出庫することができるように駐車状況及び周辺情報を事前に確認ができるようにカーラジオなどで情報提供したり、事前清算システムの導入により混雑緩和を図り、観光バスに対する利便性を向上させるなど駐車場利用に関する満足度を高めるよう検討を進める。

(8) 管理運営

ア 基本的な考え方

名古屋市を代表する施設として、「おもてなしの心を持ちお客さまを迎える」とともに、「楽しみ」を求めて来園されるお客さまの多様なニーズに合った、経営感覚を持った管理運営を進める。

管理運営にあたっては、東山動植物園が有するポテンシャルの高さを有効に活用し、コマーシャルなどPRを強化して集客を高めるとともに、効果的・効率的な運営に努め、その上で来園者から受益者として応分の負担をいただく仕組みを構築する。集客力の向上は、周辺地域への波及効果も期待できるため、副次的な経済効果も生まれるよう展開を図る。

(ア) 来園者サービスの充実

「おもてなしの心」で満足度の高い接客を行い、来園者に楽しんでもいただけるように魅力的なイベントを行い、飲食、物販事業を充実させるなど、多岐にわたる動植物園の魅力を向上させるように努める。

また、市民が安心して楽しめる運営を実現できるよう快適な園内環境を提供するとともに、的確な情報案内に努める。

(イ) 安全で快適な施設の提供

園内の諸施設を安全、安心、快適に利用できるよう、建物、工作物、設備等の保守点検や維持修繕などを総合的かつ経済的に管理する。

(ウ) 市民等の参加や協働の推進

動植物園の運営を効果的かつ効率的なものとするため、管理運営を行う行政と市民や企業等の垣根をできる限り払拭し、市民や企業などが主体的に参加でき、相互にメリットが得られる管理運営の仕組みづくりを図る。

(エ) 広報の充実及び集客対策

動植物園の魅力を発信し、多くの方にご来園いただけるように、広報活動の強化に努める。また、来園者のニーズに対応した入園手段などの仕組みづくりも進める。

(オ) 財政基盤の確立

来園者サービスを充実するために、新たな財源の確保を検討し、収入増加、健全な財政基盤の確立を図る。

(カ) 運営体制の整備

サービス業務では来園者サービスなどに柔軟で効果的に対応できる体制に改善し、環境教育などの根幹業務においても体制を強化するよう検討する。

イ 来園者サービスの充実

体験・体感型展示を導入することに加え、イベント、飲食など多様な楽しみを充実するとともに、来園者が必要としている情報の提供を行うなど、サービスの充実を図る。

(ア) イベントの充実

a 訴求力のあるイベントの実施

新規来園者やリピーターの獲得を目指し、来園者の多様なニーズに合ったイベントを実施する。

- ・ 新規来園者向けの、参加しやすいイベント
- ・ 夏休み期間の子ども向けの参加イベント
- ・ 家族やカップル向けのクリスマス、バレンタインデーイベント

b 人気イベントの発展

人気イベントについては、実施方法・期間などを常に見直し、さらに発展させる。

- ・ 動物とふれあえるイベント

c 市民イベントの充実

市民協働による花壇や花飾り等の整備、動植物園内を活動フィールドとした音楽活動やオープンカフェなど市民参加型のイベントの充実を図る。



ナイトZOO

d 地域との連携

地域の人々に愛着を持っていただき、頻繁に来園していただくため、住民や学生、NPO等の団体と連携、交流の機会を増やし、東山動植物園を盛り上げていただけるよう努める。

(イ) 飲食・物販の魅力向上

- ・ 来園者にとって魅力的な商業空間づくりとして、清潔で快適な店舗管理、ホスピタリティ溢れる接客態度、買い物の楽しさを提供する豊富な品揃えを図る。
- ・ 来園者のニーズにあわせた、多くの人に飲食を提供できるフードコートを設置するとともに、来園者ニーズの高いコンビニエンスストアの設置についても検討を行う。
- ・ オリジナル商品を販売するなど魅力と特色のある商品をおくテナントを設置して、店舗演出とともに、テーマ性のある商品仕入れを図り、楽しみながら環境や野生動物の保護の重要性を学ぶことができる店づくり、テナント運営を行う。

- ・ 食を通じた環境意識の啓発、環境行動に参加できるようメニュー、サービスの工夫を行い、楽しく学びながら食事ができる環境づくりの導入を検討する。
- ・ 常設の店舗ばかりでなく、確実な需要が見込める行楽シーズン及び催事期間のみのサービスを提供するワゴン店舗の導入を図る。



ワゴン店舗のイメージ

(ウ) 遊園地等の魅力向上

来園者は子連れのファミリーなど子どもが多く、遊園地やボートは子どもたちに「楽しさ」を提供するものであり、魅力づくりになくってはならない。そのために遊園地やボートについても一層魅力のあるものにするとともに、安全で安心して利用していただけるよう施設管理者に対して指導徹底していく。また、スカイタワーについても一体的な活用を図り、一層の魅力向上を目指す。

(エ) 情報提供サービス

アクセスや園内での回遊を支援するため、来園者へ提供する情報の内容を充実させる。また、情報提供手段の充実（大型モニター、携帯電話の活用等）や多言語化によって、より多くの来園者が情報提供サービスをうけられるようにする。

- ・ 動植物園来園前の総合的な案内情報や駐車場の場所及び満空情報
- ・ 入園直後には、トイレ、売店、レストラン等施設の場所情報やイベント、プログラム情報、見どころなどの固定情報サービス
- ・ 園内移動時には、ガイダンス情報や迷子、落とし物、救急等の問い合わせ、各施設、現在位置の問い合わせサービス
- ・ 動植物の展示状況、園内風景などの映像による情報サービス
- ・ 退園後には、忘れ物、落とし物情報サービス

(オ) バリアフリー

高齢者、障害者、子どもへの支援として、ハード面ではユニバーサルデザインの導入を進め、ソフト面では高齢者や障害者等へきめ細かな対応ができるようにスタッフの研修を行ったり、ボランティアとの積極的な連携を図ったりするとともに、主要な施設への円滑な移動をまとめたバリアフリーマップの作成を行う。

(カ) 親子来園者サービスの充実

授乳室やおむつ替えの場所、多機能トイレを整備するとともに、小さな子どもを対象とした遊具や休憩所も設置する。また、これらの施設位置がわかりやすいサービスマップの作成などを行い、親子来園者サービスの充実を図る。

ウ 安全で快適な施設の提供

園内の諸施設を安全、安心、快適に利用できるよう、建物、工作物、設備等の施設を総合的かつ経済的に管理する。動植物園の施設としての機能を十分に活用発揮させるとともに、来園者に安全、安心、快適に利用していただくため、時間とともにその機能が劣化していく状況をとらえ防止し、または劣化損傷したものを修理し、耐力の復元、機能の回復、美観の向上を図る。

また園内の植物については、健全な生育を保ちそれら植物の有する機能を持続達成させるため、植物の材料としての特性を十分に理解し、植物の健全な育成、植物空間の充実・完成を図る。

(ア) 施設管理

日常的あるいは定期的な点検、保守、劣化した部分の修繕、機器等の正しい運転・監視、十分な清掃、保安を図る。

園内の施設は多種多様に及び、かつ多くの施設で老朽化が目立つため、それぞれの施設の特性に応じたアセットマネジメントを実施し、安全、安心、快適な園内環境の保全を図る。

(イ) 清掃管理

施設の利用環境の快適性を維持するため、日常的、定期的な清掃を行う。清掃作業により、施設の清潔さや美観を保つことのほか、清掃には材料の劣化原因を取り除く、腐食を遅らせる、性能を維持するなどの重要な役割がある。

日常的な清掃としては、園路や広場、植栽地等のごみ拾い、園内で発生したごみの収集及び分別作業、トイレや休憩所、ベンチ等の施設清掃があり、定期的な清掃としては池や水路、噴水等の清掃がある。清掃にあたっては、施設の利用状況のほか、動物の飼育環境や植物の生息環境などに配慮した作業方法及び内容を選択する。

(ウ) 植物管理

a 樹木管理

広場や動物展示施設等の修景、緑陰、遮蔽、観賞などの機能をもつ高木と低木などについて、機能や利用形態に応じて管理区分・管理目標を定め、効率的な管理をめざす。また樹木の生育状態、生育環境を適切に診断（樹木診断）し適切に処理を施す。

b 樹林管理

植栽された樹木群を成熟・安定した樹林へと育成する区域、あるいは公園区域に取り込まれた既存樹林を育成・保全する区域について、生態系全体も視野に入れた長期的な管理をめざす。また、環境保全、種の保全・育成、レクリエーション利用などの観点から、その活用方針を定める。

c 芝生管理

休んだり遊んだりする利用空間と、観賞・修景を主目的とした空間に区分し、各機能の維持を目的とした管理の実施をめざす。

d 草花管理

常に美しい状態を保つための草花植替やきめ細かな除草清掃など、有料公園として一般の公園より質の高い管理を行っていく。花壇、フラワーポットなど四季を通じて配植される草花や、園路沿い、樹林地内などの草花類や野草類、水生・湿生植物などを対象とし、1年草・宿根草・球根植物による季節感のある空間演出、大規模花壇のダイナミックな空間演出、話題性のある品種の導入など効果的、効率的な手法を探りつつ、求められる高品位な管理に対応していく。また、花にまつわる関連イベントもあわせて行う。

(エ) 温室等の植物管理

一般公園とは異なる、植物園として求められる機能を最大限に発揮できるよう、適切な管理を行っていく。

a 植物種の保存にかかる維持管理

植物園にとって、多様な植物種の収集とその保存、展示は特に重要な業務である。

多様な環境で育つ植物を、良好な状態で維持し展示するため、それぞれの植物が展示場所で良好に生育できるよう、植生管理（日照を確保するための間伐等）などの環境の維持を計画的に行う。あわせて、栽培に必要な設備（散水施設など）の維持補修を的確に行う。

温室においても、熱帯地方などで成育する植物を適切に保存し展示するため、植物種に応じた管理を常に意識するとともに、建築物本体や熱源、散水などを、十分な機能が発揮できるよう維持していく。

また、良好な植物展示の前提となるバックヤードの充実を図っていく。



温室に育つ植物
(ベンケイチュウ)

b 生物の多様性を意識した維持管理

植物園は植物の展示場所というだけでなく、野生生物の生息場所として市内の公園緑地の中でも特に重要な役割を担っている。

この環境を維持し活用していけるようにするため、専門家の協力を得ながら、設置されているビオトープの施設、植生の管理などを行う。



ビオトープ

エ 市民等の参加や協働の推進

多様化・高度化する東山動植物園へのニーズに対し、市民参加による整備や管理運営を進めることにより、魅力ある東山動植物園づくりや利用の活性化を図る。

さらに東山動植物園を舞台とする参加、協働の経験を通じて市民と行政のパートナーシップを形成し、園内での活動から地域のコミュニティの活性化やまちづくりへと広がっていくことを目指す。

また、参加や協働を通じて課題を共有し解決することで、市民と行政互いの信頼関係が形成されるとともに、東山への愛着を深めていただくことで、市民の生きがいづくりにもつながっていくことを目指す。

(動植物園での市民参加の現状)

- ・平成4年に動植物園共「ガイドボランティア」が発足
- ・動植物の説明ガイドや、園内の施設を始めとする種々の案内
- ・動植物園主催の事業のサポート
- ・園内での花づくり活動や、生活体験イベントなど



青年会議所との協働による
園内のボランティア活動
「東山こどもガイド」



市民ボランティア団体「名古屋の結」
との協働による生活体験の様子
(合掌づくりの家にて)

(ア) 目的を分かち合う

東山動植物園の将来像、管理運営方針を市民等と、管理者が共有することが大切である。

東山動植物園は市民の「大切な財産」であるがゆえに、その管理に参加する人々は、市民であれ管理者であれ東山動植物園の将来像に責任を持ち共通の方針とルールを持って管理運営に望むことが求められる。

(イ) 段階的な参加の仕組みをつくる

市民参加といっても関わりの度合いは多種多様である。例えばイベントの参加だけを望む人もいれば、管理運営に参加を望む人もいる。

いくつかの段階を作っておくことで、市民は自分の興味関心の度合いに応じ参加形態を選ぶことができ、結果として視野が広がり、ボランティア活動への参加者数も増えることを期待する。

【市民参加の段階<ステップアップ>】

第1段階 「知る」

誰もが気軽に参加できるイベント、ガイドツアー、体験ボランティアなどを行う。

第2段階 「考える」

協働でボランティア活動などを進めていくために必要な講座や実習などを行う。

第3段階 「行動する」

園のガイドや保全活動、イベントなど、ボランティアとして参加できる機会を設ける。

(ウ) 多様な受け皿をつくる

整備や管理運営に参加する市民の属性は一様ではなく、個人としての参加もあれば、団体としての参加もあり、個々に応じた多様な受け皿を準備する。

【個人への取り組みの事例】

① 一般利用者

イベントへの誘い、活動紹介パネルの展示、基金への寄付など

② 募集による利用者

観察会や講座の開催

【団体への取り組みの事例】

① 園内で活動する市民団体

協議会やNPOなどを通じて専門性を活かした協働事業

② 教育機関（保育園、幼稚園、小・中学校、大学、専門学校など）

学校側と管理者側が共に環境教育を推進するという目的のもとに、年齢や分野にあわせたプログラムを実施

③ 地域の自治会

日常的な情報交換や地域の伝統行事を通じた協働事業

オ 広報の充実及び集客対策

(ア) 広報・PRの充実

a 地元リピーター確保を目的とした広報活動・広告の充実

地元の固定ファンの獲得のため、パブリシティ活動を強化、“ホームズー”意識を高める。

b 旅行者をターゲットとした広告・宣伝活動の強化

旅行の際の目的地の一つに取り入れられることを目的に、東山動植物園の存在と魅力をテレビCM、新聞広告で伝え、旅行代理店への営業活動も強化する。

コアラの赤ちゃんが母親の袋から出るようになりました



【場所】動物園 本園 コアラ舎

今年の4月に生まれたコアラの赤ちゃんがお母さんの袋から顔を出すようになり、時々、背中に乗っている可愛い姿を見ることができます。

東山動物園でこの姿が見られるのは2年ぶりのことです。

皆さん会いに来てください！

■赤ちゃんについて

- 誕生日 : 平成21年4月7日
- 性別 : オス
- 大きさ : 体長20cm、体重490g(11月16日測定)
- 父親 : ティムタム(年齢4歳)

母親のディアラと赤ちゃん(オス)

ホームページによる情報の発信

c インターネット等の活用

ホームページ等を積極的に活用して、定期的に動植物園の最新情報や季節の見所等を積極的に発信し、来園意欲を高める。

d マスメディアを通じた情報発信の促進

動植物園の魅力を高めるとともに、報道機関等に積極的にPRし、マスメディアを通じた魅力の発信に努める。



動物の出産情報など積極的にPRする

(イ) 閑散期の集客対策

閑散期における入園者数の増加を図るため、閑散期限定のイベントやパスポートなどの導入を検討する。

(ウ) 会員事業の充実

様々なニーズに対応した会員制度や、会員専用のホームページを通じた積極的な情報開示など、その特典について検討する。

(エ) チケット販売の充実

旅行代理店等との協力により、旅行代理店やコンビニ等で入場券の購入が可能となるようなシステムや券種について検討する。また、企業等団体入園のための利便性の高い制度について検討する。

カ 財政基盤の確立

(ア) 飲食・物販事業

来園者のニーズに応じた仕入れを行い、安定的に高い水準で売上を上げるノウハウを持った事業者を広く公募により導入することが必要である。社会状況を反映した、例えばコンビニエンスストアやレストラン、コーヒーショップなど人気店を誘致できるようにすることも検討する。

また、テナントからの賃料収入については、現在の固定賃料に加えて、売上に応じた歩合による賃料を徴収することなども検討する。

(イ) 企業参画

動植物園と企業の活動や取組みが、相乗効果を発揮できるような場を設け、そこに協賛等を受けられるようにするとともに、トップセールスを強化し、企業参画の獲得に努める。

【企業参画の展開】

分 類	主 な 事 例
寄 付	ゾウ、コアラ、キリン等のエサ代、施設整備などの寄付
協 賛	ナイトZOO等イベントのスポンサー 獣舎やトイレ等の施設に対する自社製品の提供 個別施設のネーミングライツ 企業のWebサイトや広報誌での特集
広 告	Webサイト上のバナー広告 園内案内マップへの広告
事業参加	企業が企画、費用負担を行う独自の展示やイベントの実施
営業参加	飲食施設、物販施設の出店
人的支援	企業やNPOによる人材の派遣

(ウ) 駐車場運営

時間制の駐車料金を導入することによる回転率の向上や休園日の有効活用などを検討し、駐車場収入の増加を図る。なお、時間制料金導入による出庫時の混雑を少しでも軽減するため、事前清算制の導入などを検討する。

(エ) 基金

市民・企業に幅広く応援していただくために、寄付金や協賛金の受け皿として、基金の設置を検討する。

キ 運営体制の充実

(ア) 運営体制の充実

a サービス業務等の体制強化

来園者に対するサービス業務は、来園者の満足度を向上させるよう魅力あるサービスを展開していくことが必要なため、ノウハウを持った外部の団体や民間に委ねることが効率的である。

園内維持管理などの業務は効率性や経済性の観点を重視するが、改札、案内、催事の企画運営などの運営業務は、加えて統一性、信頼性、継続性などの要素が必要となってくる。さらに民間の新しい発想と工夫を持ち込み、社会のニーズに応じた魅力的なサービスを提供し、民間活力による「サービスの創出」と民間の創意工夫による「経費削減」が求められている。

まずは、透明性や公平性を高めた公募型プロポーザル方式を業務委託に導入し、動植物園の効率的で一体的な運営を図る。その後は、来園者サービスなどの分野においては、一層柔軟で効果的に対応ができる指定管理者制度の導入も視野に検討を進める。

b 根幹業務体制

動植物園の根幹業務は以下に示すとおり効率性や合理性だけでは推し量れないものである。

(a) 動植物の飼育栽培

単なる家畜の飼育と異なり日本では限られた野生動物を飼育しているため、また、野菜や果物の栽培とは異なり希少な植物を栽培しているため、誰にでも委託できるものではなく、直営による技術の伝承が必要である。

(b) 調査研究

大学などの研究機関との連携を推進していくため、調査研究を専管する体制が必要である。

(c) 環境教育

動物・植物・動植物を素材とした、総合的な環境教育ができるよう総合的な体制が必要である。

(d) 種の保存

種の保存への取り組みなど、長期的な視野で計画的に取り組むことが必要な分野においても、それに対応した体制が不可欠である。

(イ) 人材育成

今日、公園を取り巻く社会情勢は大きく変化し、より効率的、効果的な管理運営を求められる一方、スポーツ・レクリエーション、市民協働、安全管理、自然・環境への配慮、環境教育等のニーズの多様化や高度化への対応が必要になってきている。

このような管理運営を円滑かつ効果的に推進するためのマネジメント能力を備えた人材を育成していく。

(9) 環境保全への取り組み

動植物展示や環境教育を通じた環境意識の啓発などの取り組みとともに、整備や事業活動に伴う環境負荷の低減や環境に有益な活動を展開する。

ア 施設計画時の取り組み

- ・今後の技術開発やコストとのバランスを見極めながら、太陽光パネルやバイオマス発電などの新エネルギーシステムの導入を検討する。
- ・獣舎等の屋上緑化や壁面緑化、園路等への植樹などにより緑化を推進する。
- ・大量に水を使用する施設整備にあたっては、水循環システムの導入を検討する。
- ・大規模な土地の形態の変更を伴ったり、既存の樹木や景観を大きく損なったりするような展示施設や駐車場などの整備は極力控えるよう努める。

イ 整備工事時の取り組み

- ・透水性舗装や浸透マスを設置し、雨水流出抑制に努める。
- ・整備工事に伴う騒音、振動、大気汚染、水質汚濁等の問題については、設計及び施工計画、工事实施の各段階において十分に検討し、周辺地域の環境保全に努める。
- ・整備工事にあたっては、原則として排出ガス対策型建設機械を使用し、周辺地域の大気汚染防止に努める。
- ・コンクリート塊の再資源化や残土などの流用などを行い廃棄物の削減に努める。

ウ 運営面からの取り組み

- ・周辺地域の環境保全のため、来園者の公共交通機関利用の促進及び自動車利用の抑制を図る。
- ・事業活動において廃棄物の発生抑制やリサイクルの推進に努める。
- ・電力、水道、紙などの使用量が多い項目について、削減目標値を設定したり、データを計画的に集計、管理するなど環境管理システムの導入を検討する。